

アクションと情報公開

—総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC全国ネットワーク)—

1. 全国組織の意義

この全国組織は、誠実に活動する各地の総合型クラブに役立つこと、または刺激を与えることをしなければ存在意義はありません。クラブに役立つアクションを起こし、成果を見せることで組織の知名度は上がり、信頼も得られるでしょう。

私は昨年、常任幹事会を通じ、北海道の声として、スポーツ振興くじ助成事業について複数の要望をさせていただき、そのうちの一つ、助成対象経費の下限の引き下げが認められました。「うちは100万円もいない」というクラブには朗報となったはずですが。

どんな話も相手に伝えなければ前進しません。一般クラブ員にとって文部科学省は、いわゆる「お上」の存在ですから、SC全国ネットは吸い上げた地域の声をちゃんと「お上」に伝えることです。そして要望、提案した内容をつまびらかにし、その結果や成果を伝えること。すなわち情報公開を徹底することが大切と思います。

2. 行政に頼りすぎない体質に

個々のクラブには、さまざまな課題があります。課題解決の方策にSC全国ネットがアドバイスを与え、手を差し伸べることは理屈として可能ですが、現実的には難しく、物理的には困難です。

実は結論は見えていて、解決策は2つか3つという事例があります。クラブの課題解決に役立つ情報は日体協のメルマガにも満載されており、ヒントはたくさんあるのですが、解決できないクラブには行政や上部機関との間で互いに知恵を出し合い解決して行くということではなく、ただ一方的にすぎる体質があるような気がしています。

クラブ自立のキーワードは、「身の丈に合った活動の展開」と、地域の風土も含めた「体質の改善」ではないでしょうか。

3. スポーツ振興策に日本らしさを

わが国はスポーツ振興の分野で欧州、とりわけドイツを参考にしているようですが、私はさまざまな講義を聴いていて、賞賛し過ぎではないかと感じています。

思想家の内田樹さんは新書「日本辺境論」の中で「他国との比較を通じてしか自国のめざす国家像を描けない。国家戦略を語れない。そのような種類の主題について考えようとする」と自動的に思考停止に陥ってしまう。これが日本人のきわだった国民性格です」と述べています。

他国の良い点を真似ることはいいとして、今後のスポーツ振興を考えると、地域コミュニティの再生も含め、総合型クラブの意義を浸透させ、クラブの価値を高め、成果を挙げようとするなら、日本らしさを加味した計画を「思考停止に陥らない人材」を集めて作ることが望めます。

伊端隆康（総合型地域スポーツクラブ全国協議会常任幹事）